



アバン仙台 Jr. Youth News 2018年 9月号

第47回

2018 高円宮杯 宮城県大会

中学3年生たちにとって、最後の戦いが始まります。この高円宮杯はMJリーグの結果から1部6チーム(2ndチームの出場している2チームを除く)と2部のリーグ上位4チームが争うトーナメント戦です。

MJリーグもちろん各チームとも最高の準備をして臨んでいるわけですが、3年生にとっては、1回負けたら敗退。そこで終わってしまうので、これまでのリーグ戦より更に緊張感と駆け引き、戦術、そして選手の前向きなチャレンジが1試合ごとに繰り広げられます。こういった試合を経験できることも幸せですが、勝ち進むことで味わえる喜びも一段と大きな戦いです。

昨年度は1回戦で敗退でした。その時、学んだことはリーグ戦で勝っているからといって油断はできません。リーグ戦で対戦した時の印象は参考にならなかったのです。そこにはチームの成熟度はもちろん、選手のサッカーへの情熱、走る姿、喜び姿、悔しがる姿から感じる大会です。今年は1回戦を突破すべく全員で勝利を目指します。

【高円宮杯の日程】

- 9月17日(月・祝) 相手:未定 会場: 松島フットボールセンターピッチ②
時間: 組み合わせ決定次第 ※ FBにてお知らせします。
 - 9月17日に勝利した場合
9月24日(月) 相手:初戦の結果次第 会場: 松島フットボールセンターピッチ②
- ※ Facebook でも高円宮杯の組み合わせやチームの活動について紹介していきますので、ぜひジュニアユースの情報をみてください。

U13 MJ3部リーグ開幕!

MJ【宮城県】3部リーグが開幕しました!このリーグは、MJ1部リーグと同様で3年生の選手たちが主なメンバーとして戦いしるぎを削ります。そこに「アバンツァーレ仙台 SC セカンド」チームとして中学1年生たちが主なメンバーとして戦っています。

これまで、同じ学年のリーグ戦や練習試合、県外遠征で強化することで学年が上の選手でも戦っていけるように取り組んできました。

【MJ3部 8月結果】

- 08月25日(土) vs 河南東中 会場:河南東中学校G アバン 4 : 1 河南東中
- 08月25日(土) vs リベルタ 会場:河南東中学校G アバン 0 : 4 リベルタ

いざ、MJ3部リーグが始まり試合をしてみることで自分たちが理想としていたことと現状のギャップを体感することで一人ひとり感じた部分があったはず。

もちろん相手を上回るプレーもたくさん作ることはできました。ですが、注意しなければいけないとわかっている場面でのやられ方、失点の仕方は改善されていない部分が多く今後の課題として修正しなければいけないと改めて感じることができた試合でもありました。では、長く続くリーグ戦でどう積み重ねていくか。前の試合よりどのように成長した姿を見せていくか。そして、選手個人やチームの現在地を確かめながら取り組んでいけるのがリーグ戦良いところです。



「勝てたからOK!」

「負けたくど? 試合目だからしょうがない」

など考えている選手はいないはず。

プレーするのは、自分たち選手で、目標にしていることがあり、その目標を達成するためには、現状のままではよくないはず。どんな相手でもどんな結果でも自分たちを疑わず信じてやり続けるからこそ、成し遂げることができると信じています。

ある選手は、「前半の半分くらいで体力が切れて走れなかった。しかも中盤で中途半端なプレーをしてしまって、チームに迷惑をかけたのが今日の一番の反省です。」や「浮き球処理などはしっかりとプレーはできたので、結果にもっとこだわってきたいです。」など満足していない選手がいることにほっとしながら次への準備をしていくのみです。

【MJ3部 9月日程】

- 9月30日(日) 相手: vs 蛇田中 会場: 女川第二多目的 時間: 9時30分
- 9月30日(日) 相手: vs 矢本第一 会場: 女川第二多目的 時間: 11時

Where there is a will, there is a way.
(意志あるところに道は開ける。)

HPは「アバンツァーレ」で検索できます!

リーグ戦の結果と成果

08月11日(土) vs DUOパーク アバン 0 : 0 DUOパーク
【戦評】 価値ある「勝ち点1」

今回の戦いは、前回の対戦よりも前に進む機会も格段に増え、得点を奪えそうな機会もあり攻撃的に試合ができました。

この試合で評価が高かったのは、攻撃で前進できたこと。そしてこれまで失点のパターンにもなっていたペナルティエリア前での球際です。

シュートブロックに寄れないまま失点、あるいはシュートを打たれることも多々あった部分。この試合では数人が前に出てブロックに行くなど、防ぐべき奪うべき場面で出ていました。臆することなく戦い、得点の気配も勝利も感じた内容でした。



左の写真のようにお互いの「距離」「マイボールにする」に挑戦できたこともチームのよい状態を感じた大きな要因でした。

非常によく戦えただけに惜しい1戦でした。

08月12日(日) vs ACアズーリ アバン 0 : 4 ACアズーリ
【戦評】 この試合、前半の出来が大きく影響する試合という位置づけで準備していました。

前回の試合の反省から「選手同士の距離」、「球際」に取り組めましたし、悪くない雰囲気でも前半を折り返せました。ですが一瞬のプレーでPKをとられ失点。その後は、緊張の糸がきれて4失点。

でも、アバンのチャンスが決して少なかったわけではなく、気持ちを切らずに戦っていたら、まだわからなかった。そこに入り込んでしまった選手たちを盛り上げきれなかったベンチワークも反省です。

8月の連戦に切り替えることに集中することを選手と話しました。

08月19日(日) vs エポルティボ アバン 0 : 1 エポルティボ
【戦評】 この一戦までの戦いで実感と反省が生きてチームの雰囲気はよかった。これまで敗戦した次の試合は雰囲気

が少し重く感じましたが、この試合当日は雰囲気が違っていました。力みなく集中できていました。

この試合ではアバンの攻撃を「結果」で終わることをテーマに戦いました。その意識からシュートで終わる、攻め切るという意味ではコーナーキックも奪えている、相手のファールも出ている。攻撃も勢いがあり、よい状態で試合に臨んでいました。

更に、GK翔真君のレベル高いシュートブロックには会場が沸きました。翔真くんがチームによく声をかけている時、安心感がありました。

ですが、少し雰囲気が落ち着いた瞬間に逆サイドに相手のクロスボールが通り惜しくも失点して敗戦。これがサッカーと感じた試合。残りあと1戦を戦いぬいてもらうことが選手への願いでした。

08月25日(土) vs FCみやぎ アバン 0 : 4 FCみやぎ
【戦評】

前回の対戦では「やりきる」ことを感じるプレーや失点を重ねてから選手の気持ちが揃わなくなった。

そこで、「勝ち気」でプレーすること、やりきることで、19日まで雰囲気よくなったボール奪取やサポートの質、パスワークがテーマ。前半は1失点。チャンスは幾つかありましたが、足が止まり出してから3失点。走りや気持ちにバラつきを感じました。トレーニングから気持ちを切らさないことに励み、高円宮杯への準備をしていきます。

「夏休み明け」は要注意！！

アバンツァーレの皆さん、夏休みも終わり学校生活がスタートして既に1週間が経ちましたね。生活はどうか？毎年あることなのですが、この夏休み明けに生活のペースを掴めないまま乱してしまう選手を多く見てきました。

それは主に成績が落ちた選手や体調を崩し出す選手、怪我する選手まで10年間の中で繰り返して見てきました。

でもこういった部分は自分だけの問題ではありません。友達やチームメイトの影響も受けやすく、自分に問題はなくても怪我をしたりもします。

そのため、周りのちょっとした誘惑に負けて生活に影響も出てくることもあるので、周りの仲間のことも気にかけてあげることがチームメイトとして重要かと思えます。

では、皆さんやその周りの仲間たちはどうですか？寝不足は続いていないですか？冷房の下にいる機会が多かった選手、暑さ負けていませんか？体調をすぐ崩したりしていませんか？そういった時の自分や仲間要注意ですよ。

更に、食事とか栄養バランスも気を付けたいものです。冷えたものはかり食べず飲まず、温かいものも摂り入れましょう。夏バテ気味の選手は食事が思うように摂れず栄養も偏りがちになります。食べやすい補助食品などで済ますことなく、しっかり食事をバランスよく、タイミングよく摂りましょう。

そして、夏休み中に不規則な時間で生活していた選手、少しずつ学校生活とアバンの活動、習い事も含めて時間を調整していきましょう。

例えば、これから1・2年生の皆さんは学校行事とサッカーの活動として勉強とに忙しくなり、「面倒くさい」と思うこともありますが、その時には目の前のやるべきことを後回しにしてしまえば大好きなサッカーの時間にまで影響してきます。

まずは「勉強」をしっかり頑張ることで、「勉強しない」自分に負けて一番に頑張りたいサッカーが2番手にならないように今からでも習慣にいきましょう。

また、秋が近づくと暑さも落ちつき活動しやすくなります。そこで、近々の戦いやその後まで見据えた活動を行うためにも、練習に励み、選手としても身体づくりを頑張ってください。

コーチもサッカーノート

富山コーチはアバンで活動し11年目になります。これまで、個性や創造性を感じる選手と数多く出会ってきました。その選手たちとやりとりしたサッカーノートの内容からはサッカーとチームへの情熱を感じたものです。

時には、自分に激を入れたり、反省したり、また一人で責任を感じている選手には相談やアドバイスをしたり、多くのことがサッカーノートに表れていました。

例えば、このノートはあくまで自分の成長のために取り組んでいるため、サッカーの考え方はもちろん、ノート上では様々な感情とそれに対する冷静な分析、修正点、選手によっては今後の目標なども書き続けていくわけです。

ただ、その取り組みは皆さんだけでなく、コーチもアバンツァーレでコーチとして活動してからノートをよく書いていますよ。これはどちらかという後々で書く時と、その時その瞬間に感じたことを書いたりしています。

コーチのサッカーノートも書き続けて10冊くらいでしょうか。写真には全部載せられませんが、大事な「記憶」です。そしてその時の「自分」を感じるノートです。最近のコーチのノートはどちらかと言えば、皆さんのプレーからかなり影響を受けていますね。コーチも勉強しています。

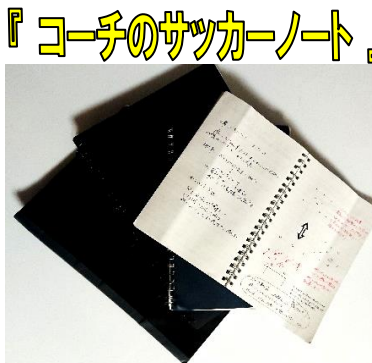
コーチを始めた頃の内容は、20代までの選手経験、苦労した経験からヒントを得たもの、感覚的な部分から書かれていました。でも最近は、公式戦に留まらず、トレーニング中の皆さんから刺激を受け書くことが多いです。

コーチもまだまだ「サッカーを知りたい。」そんな思いがまだまだあります。

皆さんの方がこれからももっとも最新、進化していくサッカーを経験し、体感することで選手として成長できます。

ただ決して「興味」で終わらず「行動」あるのみです。行動するからこそ、その結果から新しい発想も、これまで整理できなかったことまで良い兆候が出てくるはず。また気持ちの整理も修正や発想には大事なことですよ。

これからも自分のためのサッカーノートを丁寧に続けながら、自分の成長を信じて、そして自分の成長がチームを成長させると信じて、直向きに情熱をもって取り組んでいきましょう。



『コーチのサッカーノート』

テクニカルレポート

今回のテクニカルポイントは、サッカーのプレー中に「判断」する上で重要な部分。これがプレーの「質」「成功率」にも影響する部分。

それは。。。『正確に観る』

ということです。サッカーのプレー中に判断する時に「よく観て」とよく言われた経験はあると思いますし、コーチも口にします。

ただ、「どこを」正確に観るのがとても重要です。コーチが観ていないと感じるのは、型にハマったプレーです。特にワンツールの場面などによく見かけます。それは2対2の練習や試合中まで。

トレーニングをしたので挑戦することは大事ですが、このワンツールの選択が練習でやった型通りのままではいけません。

皆さんが練習した技術を使うときに判断基準として持ってもらいたいことは相手がいるということ。

相手にも必ず守備戦術があります。更に、選手それぞれの戦術眼、試合勘、選手の力量などの要素も関わってきます。

また別の例から話すと、「縦」を狙った攻撃、逆サイドの相手サイドバックの背後を狙ったロングキックでも、蹴る直前に既に相手のよいポジショニングもあります。それがいかに戦術とは言っても、ただがむしゃらに蹴っても球際の上手なチームにボールを奪う機会を与えてしまうだけです。

このように練習したままの「型」をただ実行するのではなく、自分やチームの戦術に影響を及ぼす相手の「反応」や「準備」もしっかり観ることが大事です。

そのため、皆さんに伝えたいことは、トレーニング中にもっと「正確に観る」ということ。ここからもっと具体例を挙げると2対2のトレーニングで見られるのが、突発的にパスを出すケース。

相手守備2人の間(ギャップ)や背後に抜け出すスルーパスを狙う機会は確かにありますが、通せる「だろう」といった見方ではまだ観れていない部分もいくつかあります。

それが相手との距離や相手同士の間隔の大きさ、そして立ち位置などから観ることです。それを見れば相手の足に当たったり、相手に直接奪われる確率も高くなります。

もちろん、一瞬の閃きで出すような即興性が印象強いプレーもあります。ですが、そればかりでなく、今後の選手としての成長も考え「確実に観る」を意識しましょう。

最後に、決して戦術などに対して否定的なことを言いたいのではなく、もっと丁寧に観られるようになれば、上手いかなかった部分も成功率があがると思います。細かいですが、もしよければ参考にして練習から丁寧に観てみましょう。

ある選手の成長



今回紹介する選手は、中学3年生の佐藤つき君です。颯樹君は、チームの中でもコントロールの上手な選手です。小学生でスクール生だった頃から上手でした。

ただ、少し控えめに見えてしまいがちでした。チームの中でもどちらかと言えば寡黙な選手です。

そのため、これまで試合の中では失敗を大きく観られることが多かったのですが、新人戦が終わった辺りから少しずつ仲間との会話も増え、静かな闘志も感じられるようになっていきました。それが良く表れているのが、コーチも観ていて感銘すら覚える「献身的な守備力」です。チーム1・2位を争う程の走力を見せるようになり、コーチは頼もしく見守っているほどです。

佐藤 颯樹

颯樹君の走りが無ければ決定的な場面も多々あったでしょう。でもそこにいる。よく走ってくれています。身体が自然と考え、自然とその危険な場面に身体が向かっているようにすら見えます。

そういったどこにでも顔を出せる選手、コーチが大好きなアルゼンチン代表のハビエル・フェルナンデス選手のような存在感です。仲間も言葉以上に気づく以上に自然とリスクも犯しながら攻撃に力が入れることが出来ています。

とても頼れる選手に成長しました。次回も頑張っている選手、成長している選手、1年生も紹介していきたいと思えます。